

## II. 研究報告

## 職業的アセスメントを介した連携促進に向けたモデル事例の収集

- 研究代表者 前原和明（秋田大学）
- ・研究分担者 縄岡好晴（大妻女子大学）
  - ・研究分担者 大谷博俊（鳴門教育大学）
  - ・研究分担者 野崎智仁（国際医療福祉大学）
  - ・研究分担者 山口明日香（高松大学）

### 研究要旨

全国11地域における職業的アセスメントを介した連携の取組についてのモデル事例収集を行った。現在、このモデル事例はアクションリサーチとして継続的に実施されているが、現段階の収集状況から、11地域を2つの段階に分類できると考えられた。その段階とは、「第1段階：未準備段階」と「第2段階：実践展開段階」である。地域の違いはあるが、これらの段階に地域は分類され、また二つの地域は段階としてつながっていると考えられた。地域をこの二つに分類してモデル事例を収集することは、今後の研究成果の還元の際における参考事例として、より現場に応じた多様な実践事例を提供することになると考えられた。

#### A. 研究目的

ここでは、以下の分担報告書において報告する11地域の取組状況についての理解を促すための枠組みを提供する。各地域の取組の詳細については、以下の研究分担者等からの報告を参考頂きたい。

これまで職業的アセスメントを介した連携の取組については、研究レベルでの報告はほとんど見られないが、全国地域において様々な実態があることが予想される。これらの地域が実態として様々である理由を明確にしておくことで、今回の研究における収集されたモデル事例の意味を理解し、収集されたモデル事例の還元において権限の視点として、本研究を有用なものとする

ことができると考えている。

#### B. 調査方法

本研究では、図1のように、11の地域において、職業的アセスメントを介した連携の取組について、2021年4月1日～2022年3月31日の期間でモデルとして事例収集を行った。

この事例収集では、研究者が地域の実践に介入しつつ、改善に取組み、参与的かつ継続的に研究に関わっていくというアクションリサーチを取っている。その意味で、研究1年目は、進捗報告であり、継続的に2年目も取組んでいくことが望まれる。

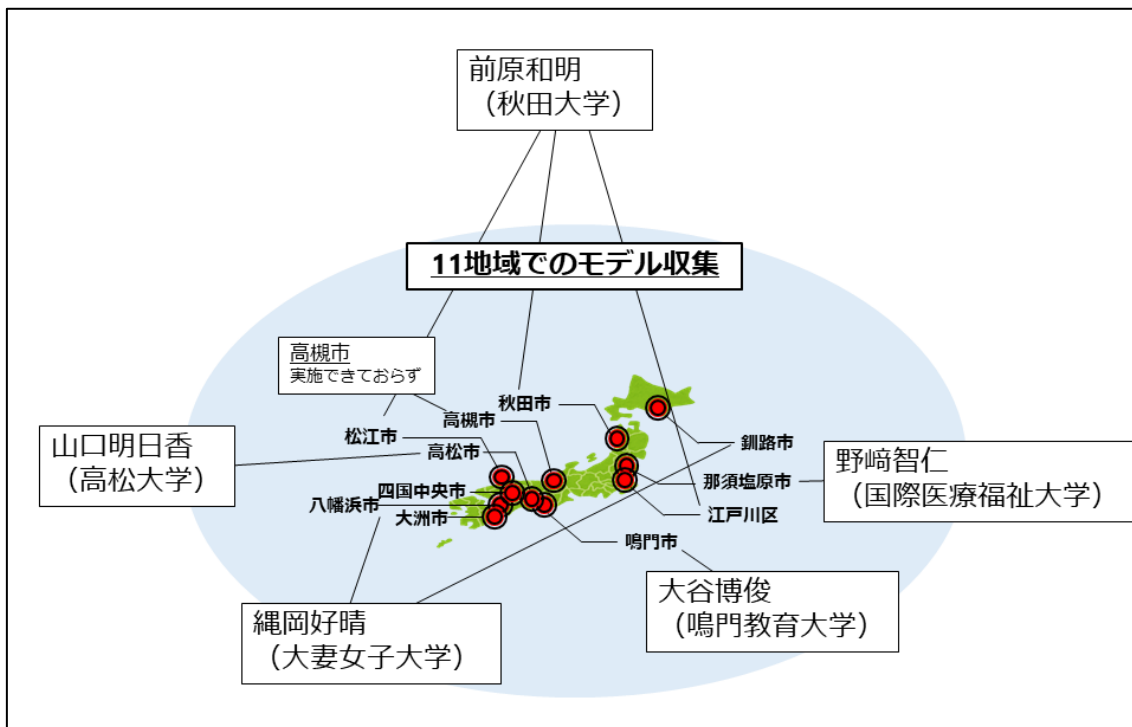


図1 モデル収集地域の概要

### (倫理面への配慮)

なお、この11地域におけるアクションリサーチの倫理的配慮として、秋田大学研究倫理審査委員会の承認を得た（2021年4月19日付、第3-1号）。

### C. 結果

現在、11地域（なお、高槻市についてはコロナ感染拡大等を理由に十分な実施ができておらず）において、職業的アセスメントを介した連携の取組を実施している。各地域の取組については、以下の報告において、地域ごとの報告を行う予定である。

これらの11地域については、モデル事例の収集状況から、2つのグループに分けることができると考えられる。この二つのグループとは、①既に自立支援協議会等の連携の仕組みが機能し比較的円滑にアセスメン

トを基盤とした実践に取り組んでいる地域（実践展開段階地域）と②自立支援協議会等の連携の仕組みはあるがアセスメントに関連した連携及び実践が十分に実施できていない地域（未準備段階地域）である。

#### ①実践展開段階地域

実践展開段階にある地域として、鳴門市、釧路市、江戸川区がある。これらの地域は就労アセスメント実施及び支給決定において有効な取組を既に存在している地域である。

#### ②未準備段階地域

未準備段階にある地域は、上記の実践展開段階にある地域を除いた7地域である。これらの地域は、現状、就労アセスメント実施及び支給決定において課題を持っていると

考えられる地域であるが、今回の研究を通じて、取組みを開始している地域である。なお、今年度においては、コロナの感染拡大予防の観点から高槻市の取組が未実施の状況である。

#### **D. 考察**

今回のモデル地域については、地域において、状況が異なる中で、様々な現状を示しており、必ずしもすべて分類できるとは考えられない。しかし、個々の地域が違いを持ち、総じてグラデーションしながら2つの段階に分類できると考えられる。

第1段階は、未準備段階であり、「自立支援協議会等はあるが、アセスメントに関連して有効に活用できていない地域が多い。そのため、関係する支援機関の役割理解、アセスメントに対する共通理解の醸成、連携促進のためのコミュニケーションなどを、まずは行っている。」という段階にある地域である。

第2段階は、「協議会等が機能していた。そのため円滑にアセスメントを基盤とした試行的実践に取組める。これらの地域が進んでいる理由は、一部の機関や人がリーダーシップを発揮してきたという背景がある」という段階にある地域である。これらの地域は、このように二つに分類して捉えることができると考えられる。

このように分類することは、今後の研究の進捗に向けて有効な視点を提供する。この研究成果の還元において、多くの地域は、職業的アセスメントを活用した取り組みをするとなると、「重要性は認識するが何から始めたらいいかわからない」との戸惑いを

もつことが想定される。そのため、この研究は、「第1段階にある地域が、新たな取組みを開始するための視点を提示」、「第2段階の好事例から、モデル的取組みを理解することができる」という形で寄与すると考えている。

#### **E. 結論**

現在、このモデル事例の収集は1年目である。方法において述べたように、この研究は研究者が参与的かつ継続的に関与するアクションリサーチのスタンスを取っている。各地域の取組みの詳細については、以下の報告を参照していただきたい。

今後は、ここで報告した2段階の視点で、研究に取組んでいくことで、更なる取組みの深化が期待される。

#### **F. 引用文献**

なし

#### **G. 研究発表**

##### **1. 論文発表**

なし

##### **2. 学会発表**

なし

#### **H. 知的財産権の出願**

なし